

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
第670号 2025年12月14日

鈴木 真主任司祭 主日ミサ説教

2025年9月28日 年間第26主日 C年
ルカ福音書 16章19～31節



『金持ちとラザロ』の箇所です。「天国と地獄」という思想は、いろいろな宗教や文化の中に見られるものです。概し

て生前に善いことをした人は天国へ、悪いことをした人は地獄へ…というわけですが、きょうの箇所は少し違うようですね。

目の前にいる小さい人、立場の弱い人に目を向けないでいることが、神さまから離れてしまうことになり、ともするとそれは取り返しのつかないことになってしまう…という警告です。

神さまに向かうことは人へと向かうことと同じだ、と福音書は説きます。例えば「もっとも重要な掟(マタイ22:34～40、マルコ28～34、ルカでは10:25～の『善いサマリア人』の中で語られる)」では、神と人とを愛すること、と提示されます。神さまを愛するとは、神さまの視点に立って人を愛することと同じである、と。いつも言うことですが、「回心(メタノイア)」とは“視点をを変える”という意味ですね。

『聖書と典礼』の注書きにもありますが、「モーセと預言者」とは旧約全体を指す言葉です。具体的に

は「モーセ」は律法(つまり神と人とを大切に、という人間の側からのリアクション)を、「預言者」は神さまから託されたメッセージを人々に伝えること。つまり神さまから何を求められているのか、それにいつも目を向け直すことが大切だ、というわけです。

いつでも、神と人へと向かうことができるよう、祈りたいと思います。